

# ゆりかご 園だより



2期(6~9月)のねらい 2023-6-1  
からだづくり活動を通して  
子どもの仲間関係の質を高めよう

新型コロナウイルスが5類に移行したことで、卒園家庭をはじめいろんな方から、「バザーはいつするの?」「夏まつり、今年はやるんでしょう?」と声をかけられます。その度に「今年は見合わせました。来年こそ開催したいと思います」とおこたえしています。皆さんとても残念そうなので、来年

こそバザーも夏まつりも開催できることを願っています。

5類に移行して初めて「開催できそう」と思った行事は、父母の会主催の新入園家庭歓迎会です。職員たちも全面的に協力しようと思っていました。新歓恒例の流しそうめんは難しいだろうけれど、わたあめやポップコーン、焼き鳥は、たんとかいけそう...と楽しみにしていましたが、胃腸炎の流行で実現できませんでした。

コロナ禍の3年間、これまで当たり前のように行っていたことができなくなった時、「子どもたちのためにはどうしたらよいか」「どんな形ならできるのか」と大人たちが知恵を出し合い協力し合ってきました。

運動会は0-1才児の参加を諦め、2才からの参加としたうえ、観覧者の人数も制限しました。昼食休憩を挟んで午後から行っていた4-5才児の競技もやめ、午前中で終わるようにしました。卒園式も同様です。参加者の人数制限、昼食や夜の「卒園を祝う会」の中止、大人たちが集まり交流する機会はずっと減ってしまいましたが、制限や縮小がありながらもたんとか行事を開催してきました。

コロナ禍で窮屈になった保育活動の筆頭は何といても「クッキング保育」です。「子どもの手による作業は基本的には行わないことが望ましい」と国からのお知らせがあり、園の判断で行う場合は「おしゃべりをしない」「ソーシャルディスタンスを保つ」といった「それは無理でしょう」と思う遵守項目があり、諦めました。5類になったので、「クッキング保育」も徐々に実施できたと思います。(早速今月は異年齢クラスでヨモギ団子を作る予定です。

在園児の多くはコロナ禍に入園した子どもたちです。コロナ禍前を知らない子どもと大人も、コロナ禍前を知っている子どもと大人も、みんなが楽しい園生活を送ることができるよう願っています。

まずは延期月になった父母の会主催の新歓が盛会となり、大人たちの親睦が深められるといいですね。

